

令和5年度

愛知県職業能力開発審議会議事録

愛知県職業能力開発審議会議事録

1 日時

2023年7月24日（月）午前10時から午前11時15分まで

2 会場

愛知県本庁舎 6階 正庁

3 出席者

[出席委員 8名]

稲垣裕介、友松佳代、伊藤充隆、志村聡子、
丸山洋子、山崎敏浩、竹内雅臣、仁科 健（敬称略）

[欠席委員 7名]

近藤千早、坂田有紀、播元公昭、関 徹、小倉祥子、
高綱睦美、皆川治廣（敬称略）

[事務局 7名]

労働局長 大寄みどり、就業推進監 森 英輝、
産業人材育成課長 花木俊敬、産業人材育成課担当課長 石川竜也、
産業人材育成課課長補佐 森 章、産業人材育成課主査 多賀 潤、
産業人材育成課主事 松井勇樹

4 議題

- (1) 第11次愛知県職業能力開発計画の進捗状況について
- (2) その他

5 審議内容

事務局から出席状況の報告を行い、本日の審議会が有効に成立していることを確認した。

その後、仁科委員から会長以外の議事録署名人に丸山洋子委員を指名した。

その後、事務局から議題（1）について説明した後、意見交換を行った。

【議題（1）第11次愛知県職業能力開発計画の進捗状況】

（資料1-1、資料1-2により事務局から説明）

（主な意見等）

委員：

ご存知のように中小企業の置かれる状況は、新型コロナウイルス感染症が緩和されても、依然厳しい状況であり、人材不足はもちろんのこと、人材育成に関して知識や資金も十分でなく、色々な会社の状況を伺っていると、この先どうなってしまうのか、非常に心配になっている。そうした中、職業能力開発計画に取り組んでいただいていることは非常にありがたいと思っている。

資料の内容については、全面的に賛成であり、継続をお願いしたい。

意見というよりは、少し確認をさせていただきたい。資料1-2、7頁にある「○中小企業の人材育成力向上に資する経営者や幹部社員向けの研修メニューを提供する商工会議所等を支援する。」の部分で、2022年度の実績が3,396人の方が受講されていて、2023年度の目標が620人となっている。昨年度が予定より多かったのか、今年度何らかの事情があって目標を低く設定しているのか、確認したい。

事務局（書面にて回答）：

資料の「取組状況（2023年度）」については、現時点で参加人数の把握が困難なため、第11次愛知県職業能力開発計画に記載の目標値を掲載している。

なお、最終的な参加人数については、昨年度と同規模になるものと考えている。

委員：

IT人材を増やしていくということに関しては、私どもNTTもIT関連の企業であるため関心がある。また、私が女性活躍推進に関わるグループの担当をしていることもあり、女性の活躍推進という点に関心を持って、本審議会に参加させていただいている。

本日、説明いただいた報告に関して、私も稲垣委員と同じく、異論はない。このまま進めていただきたいと考えている。

1点、資料1-2、2頁右側の技能五輪について、2022年度は、入賞者88名で全国一位、アビリンピックの方もメダル獲得数が全国1位ということで、素晴らしい成績を残していると思うが、こちらの競技というのは47都道府県すべてが参加しているということか。また、技能五輪、アビリンピックの全体の内容に関して、もう少しお聞かせ願いたい。

事務局：

技能五輪全国大会には、全都道府県が参加しているが、職種としては40数職種を実施しており、県によって参加する職種、しない職種があるため、全都道府県が全職種に参加しているわけではなく、愛知県も全職種に参加していないという状況である。

アビリンピックの方は、25種目の実施となっており、こちらも都道府県によって

参加する種目が異なっているという状況である。

委員：

資料 1-2、2 頁左の一番下「オ モノづくり技能の振興による技能尊重気運の醸成・モノづくり技能の継承支援」に記載のある、2019 年、2020 年と連続して、Aichi Sky Expo において技能五輪全国大会が開催され、高まった技能への関心や技能尊重気運を技能全国大会・全国アビリンピックへの選手派遣等を通して継承していくということに関して、今年から 3 年連続で愛知県での開催となり、地元としてこの機会を逃すことなく、従業員の人材育成として積極的に活用しているつもりである。

また、資料 1-2、7 頁の「施策の柱 4 中小・小規模企業の人材育成の支援」の「ア 中小・小規模企業のニーズに対応した人材の育成」にある「中小企業や中小企業団体が自ら実施する認定職業訓練に対し助成を行うとともに、訓練に関する指導、助言、情報提供等を実施する。」に関して、特定技能制度というものが今後、制度が変わり、今までの国際貢献を掲げてきた制度も廃止となり、実態に合った人材確保、人材提供の制度となっていくわけだが、私たちは新たな特定技能制度を見据えて、外国人労働者が習得した技能を今後のキャリアパスに生かせるような人材育成に訓練校として関わっていければと思っている。

委員：

外国人労働者のキャリアパスについて、今後、人材不足の観点からも各方面で施策を進めていただければと思う。

委員：

資料の中身については、アウトカム指標、アプトプット指標ともに、目標を下回る項目はいくつか見られるが、内容としては順調に推移していると評価していいのではないかと思う。

6 月末頃に、中小企業庁から「中小企業・小規模事業者人材活用ガイドライン」が公表されている。企業の課題に応じて、中核人材を採用すればよいのか、あるいは自社内に育成すればよいのか、またどのような人材が必要なのか、育成をどのように進めていけばよいのか等々、非常に順序立ててポイントを押さえたガイドラインとなっている。その中で、社内育成について、社内だけでは育成が難しい企業が、行政、民間等の研修やコンサルタントを活用するよう書いているが、実際にどのような機関が研修等を実施しているのか分かりにくい。

本日、紹介いただいたスキルアップ講座は、本当にたくさんの講座があり、民間ではできない安価でしっかりした講座がある。こういったものをガイドラインなどが公表された際に、一緒に発信できるような仕組みがあると、受講者の方も増えていくと感じた。あとは、単純な興味として、スキルアップ講座に関して基本的に 2 日間、集合で研修を受講することになるとは思うが、例えば e ラーニング化して、いつでも受講ができるような環境を整えたりすると、利用できる企業が多くなるのではないかという印象を受けた。

事務局：

事業の周知に関して、資料の中でも説明させていただいたが、愛知県産業人材育成支援センターに産業人材育成連携コーディネーターという者がおり、その者達が中小企業をいろいろと回り、社内の人材育成をどうしたらいいのか、どういった研修が世の中に存在しているかといった諸々の情報をご紹介させていただいている。今後も、多くの中小企業にそういった情報が伝わるよう工夫をしていきたい。

もう1点、スキルアップ講座のeラーニング化について、まずスキルアップ講座というものは、職業能力開発促進法上に位置付けがされている事業であり、実技を伴うものに関しては、各高等技術専門校の方に来て、実施していただくという法的な制約がある。

一方、学科のような一方的に教えるだけのようなものについては、高等技術専門校外の施設でも実施が可能ということにはなっている。eラーニング化については、実施にあたって設備等の問題もあるため、直ぐには対応はできないが、今後、実施ができるかどうかを含めて、検討させていただきたい。

委員：

技能五輪のメダル獲得数が日本一だということを毎年、聞かせていただき、改めて同じ製造業としてやはり愛知県の製造業が強いものだとの認識させていただくとともに、心強いと感じている。また、デジタル活用は、中小・小規模企業に、まだまだ活用されていないという実感があるため、県側でも引き続き情報発信していただきながら、企業側も活用を検討したいと思っている。

説明いただいた施策は非常によいものを進められていて、私も一部知っているものもあり、活用させていただいているものもあるが、仲間の製造業の方々は、知らないという現状である。もう少し情報発信が多いと良いのかなと毎回思っているので、引き続き、よろしく願いしたい。

事務局：

県でセミナーや事業をやる際には、商工会議所や商工会へのちらし送付や、県からのメールマガジンなど様々な形で情報発信をしているが、一部の事業者からは事業のことを知らなかったという話を伺ったりしている。

どうすれば届くのかという課題もあるが、今後も様々な機会、イベントだけではなく、ちょっとした会議などの機会を捉えて、伝えたい情報ができるだけ多くの中小企業の皆様に届くよう努めてまいりたい。

委員：

企業側においても、モノづくり人材の育成やデジタル人材の育成は、同じ目標であり、模範を示せるよう率先して進めて参りたいと思っている。また11月の技能五輪全国大会の最優秀選手団賞獲得に向けて、合同訓練会を実施し、切磋琢磨しながら取り組んでいる。

資料にはないが、愛知県内の企業内訓練校16社の共通の課題は人材確保である。

全国の工業高校に求人を出しているが、少子化、工業高校離れ、求人企業の増加などで、地方によっては求人倍率 20 倍、30 倍となっており、昨年度、一次募集で定員が集まらず、二次募集を何年か振りに実施したりとか、最終的に定員割れしたりする企業もある。県外で人材が確保できず、県内に求人を多く出し過ぎると地元企業への影響が大きいと考えており、できる限り県外から優秀な人材を確保できるよう連携を図っている。地方では、県、工業高校校長会、地元企業が一丸となって、他県への人材流出防止策が進められており、私たちも先を見据えて、しっかり企業の魅力、愛知県の魅力を伝えていきながら、人材確保に取り組んでいきたい。

質問事項等は特にない。

委員：

現状の課題として、技能検定に合格された技能士の方の数が、多いときには 1 万数千名だったが、毎年のように減っている状況にある。モノづくり離れというところに歯止めをかけられていない現状である。

計画の進捗状況については、特に質問はない。

思うところを少し述べさせていただくと、資料 1-1 の右下、4 つの施策の柱へのコメント部分、「自動運転や電動化が進展しても、モノづくりを支えているのは人であり、技術を担う人材育成や技能継承が必要である。」とあるが、私の思いはこれであり、非常に重たい言葉と受け止めている。世の中のデジタル化が進んでいく中で、モノづくりという部分は、絶対に外してはいけないと思っており、デジタル一本で始まり、終わるということではなくて、必ずリアルなモノづくりにつながるところもセットで研修等が進んでいけると良いと考えている。

また、たくさんの事業を進める中で、どれもが順調かというところでもないと思う。順調だから続けるだけでなく、必要だから進める、順調ではないけれども止めてはいけないものもあると思う。そういう点でいくと、目標値に対して結果がどうなのかということを見ながら、必要性を踏まえて、優先順位を付けて、事業そのもののスリム化というものも考えながら進めていく必要があると感じている。

次に、モノづくりに関心を持ってもらうための取組として、小学校、中学校の教員の皆さんへの企業見学会という形で、指導者への取組を実施されている点は素晴らしいと思う一方で、やはり児童、生徒の皆さんが企業やモノづくりに関心をもってもらおうということが必要で、リアルな現場をお子様達に見ていただくという取組が効果的と感じる。

最後に、技能五輪全国大会に関して、2004 年に岩手県がメダル獲得数 1 位となった背景には、中小企業が頑張っている職種を岩手県が支援したということがある。3 年連続で愛知県開催となる技能五輪全国大会で、愛知県が 1 番になるという数字の部分の部分が大事ということもあるので、1 番を取り続けるためにも、ぜひ苦労されている中小企業へのサポートをお願いしたい。あと、国際大会の招致についても、愛知の選手が日本の代表として、世界の舞台上で活躍できることを見据えて取り組んでいく必要がある。

事務局：

児童生徒にモノづくりの現場を見ていただくという点に関して、モノづくりの現場には直接ならないかもしれないが、今年度から3年連続で愛知県にて技能五輪全国大会が行われるため、各学校に大会を直接、見学いただけるよう働きかけを行っている。また、技能五輪の選手だった方達や、熟練した技能を持っている方達を小中学校へ派遣して、その場でその方々が持っている技能を実演していただいたり、子ども達にも体験してもらったりする授業や、技能五輪選手の練習を見学に行くという授業をやったりして、子ども達にできるだけ、すごい技を見てもらう、現場で身体を動かしてモノを作っているところを見ていただける機会を確保するように、今後、努めていきたい。

また、技能五輪に向けた中小企業への支援に関しては、技能五輪やアビリンピックを目指す方達の練習に関わる費用といった選手派遣に係る費用を助成して、中小企業の全国大会等への参加を支援している。それから、国際大会の招致についても、まだいつの国際大会を目指すかと言える状況ではないが、目指すという方向性に変わりはないため、そう遠くないうちに、招致が実現できるよう努めてまいりたい。

委員：

まず、計画の進捗状況に関しては、ご報告いただいたとおりに、これからも進めていただければと思う。

人材不足という点では、大学にいる身からすると、デジタル化の流れを受けて、どの大学もデータサイエンスを冠にして、データサイエンス学科などを新設しているが、教える側の人材が圧倒的に不足している問題がある。

新型コロナウイルスの蔓延という経験を経て、対面での教育の重要性というものをすごく実感しているが、バーチャルでの教育ツールも開発され、教育のある部分では、非常に効率化できるように感じた。効率化した分、実験などの対面での教育の方に、リソースを費やしていくことが必要じゃないかなと思っている。

それから、文科省が予算を付けて、公立大学や私立大学に工学系の学科を創っていくという動きがあり、今後5、6年の間に私立大学において工学系の学科が増えてくるのではないかなと思う。そうすると、自然にそこに教育する側の人材が不足するという問題が出てくるかなと思うが、民間企業などに支援する人材がたくさんあると思うので、それらを活用して、私立大学は生き残りを懸けて、理系の学科を創設してくのではないかなと思う。

最後に、留学生などの外国人人材も大切になってくるため、愛知県の方で、インターンシップも含めた留学生に対する支援にも力を注いでいただければと思う。

各委員からいろいろとご意見、ご質問等がありましたけれども、本日のご発言をご検討いただき、施策の実行に反映していただけたらと思う。